

第9回 SC 委員長会議報告

下記の内容で第9回 SC 委員長会議が開催されました。

日 時： 2007年7月23日（月）13:30～17:15

場 所： 自動車会館 1F 会議室

出席者： 各 SC 国内分科会委員長， JNC 委員長， 副委員長， 顧問， 幹事団他

議事内容：

(1) 開会挨拶

冒頭， 林委員長より， 「本会議は， JNC 活動に於ける要。 本年は， 11 月に久しぶりに日本でシンポジウムが開催される予定， また， 後半は， 来年パリ大会の論文仕上げなど， 多くの課題が有るので， しっかりした論議をお願いしたい」 旨の挨拶があった。

(2) 情報の伝達について（加藤幹事）

加藤幹事より， 「本日は， 一部 SC は代理者が出席されているが， 今後の活動にとって重要な内容であるため， 今後の活動に齟齬を起こさないよう， 各 SC に持ち帰っていただき， SC 委員長以下にしっかりと伝えたい」 旨， 依頼した。

(3) 本部執行委員会議事概要について（林委員長）

4月24日にドバイで開催された本部執行委員会でのポイントを林委員長より紹介。

- ・ TC 報告では， 全体的に各 SC のパフォーマンスは良好。（SC 活動： D1 が「材料グループ」の領域を出ていない。新技術に関する長期的な戦略的活動を検討中）
- ・ IEC/CIGRE UHV シンポジウム： 短期間に準備ができたことは特筆に価する。
- ・ WG/TF へのエキスパート参加： SC メンバが自国のエキスパート選任に責任を持ち， 各 NC がそれを支援するべきとの論議があり， 次回理事会の議題に含められる。
- ・ 本部 SC 委員長の要件として， リーダーシップや CIGRE 経験（必須でないが WG をリードした経験など）が求められている。
- ・ 財務関係： 10 年後を見据え， 何にお金を使うかをよく考えていく必要性を指摘。
- ・ 新表彰システム： より選考の厳しい権威ある， 「CIGRE Awards」 を設置。 1～2 名/2 年。
- ・ CIGRE の歴史： 今後の進め方を少人数のグループで検討（林委員長がメンバ）。 第 1 部は CIGRE 全体， 第 2 部は各 NC 毎で， 様式を統一することについて提案あり。

(4) AORC 会議開催について（服部幹事）

6/11～12 にペナン（マレーシア）で開催された AORC 会議について， 服部幹事より概要報告。

- ・ 要望事項： WGC1.12 について， 日本からもコレスポンディング・メンバの選出依頼有り。 C1 国内委員会の白銀氏に連絡している。

- ・大阪シンポジウム対応：AORC の進め方について論議したが、案を持ち帰り JNC 幹事会で検討した結果、原案に対し修正提案を行うこととした。

(5) 2007 年 IEC/CIGRE UHV 国際標準化シンポジウムについて（三島幹事）

7/18～21 まで、北京で開催された題記シンポジウムについて、三島幹事より概要報告。実際に参加された横山副委員長から、以下の補足があった。

- ・日本から A2, A3, B3, C4 の各委員長を含め 41 名出席（中国 210 名、中国外 80 名）。
- ・会議の最後に、IEC SB1 池田議長から、「UHV の技術は完全ではないが十分に成熟しており、規格化の必要性が確認された」とのコメントがあり、成功裡に終了。
- ・標準化作業として、IEC/CIGRE で Adhoc Group を設置した検討継続が提案。
- ・日本からの出席者は、日本の技術・経験について、十分な情報発信を行った。
- ・本シンポジウムを受け、IEC SB1 は本日確認の打合せを北京で開催、TC8/MT1 も次回会議（9 月パリ）で、標準電圧改訂作業へのシンポジウム結果の反映について検討。Adhoc Group は、次回打合せ（11 月）に向け準備。（SB1 としては規格化の要件は整っているとして SMB に提案し、2011 年目途に規格化したい考え）
- ・CIGRE A3.22, 9 月に本年第 3 回目となるリオ会議を予定。次回会議で UHV 変電機器の仕様の技術背景を取り纏めた、最初の WG 文書を完成させる。
A2 白坂委員長より、以下の補足があった。
- ・日本国内に WG の支援組織を設置して検討を進めていくことになった。
- ・A2 としては、WGA3.22 の Liaison member として、A2 白坂委員長が指名。
B3 小林委員長より、以下の補足があった。
- ・UHV 検討グループとして、B3 内に B3.22 を設置し、9 月に第 1 回作業会を開催。
- ・機器としてでなく、システム面から評価。（東芝の横田氏がコンビーナ就任予定）
- ・標準電圧：日本は 1100kV を推奨しているが、インドが 1200kV にこだわり。

(6) 2007 年大阪シンポジウム準備状況について（シンポジウム実行委員会幹事会 高野氏）
大阪シンポジウムの概要を実行委員会幹事会の SCC1 高野氏より説明。

- ・9 月下旬に実行委員会を開催し、最終的な確認をして頂く予定。
- ・10/30 に JNC 主催ディナー、11/1 にレセプションを予定。林委員長、田井副委員長に挨拶、乾杯の音頭を依頼。内容について、JNC 内で検討。（時節、重複に留意）
- ・6/15 が期限であったが、7/15 現在で届いていない論文があると KOWAL 氏から指摘があり、各 SC 国内分科会で確認して頂くこととした。

(7) 2008 年レギュラーメンバ交代について（三島幹事）

2002 年 SC 再編以降、レギュラーメンバ（以下 RM）の配分が電力に偏っているため、事前に今回交代予定の SC 委員長に意見を伺い、幹事会で検討、役員会での審議結果を報告。

- ・JNC としては引き続き 6 年を任期でお願い。
- ・JNC としての RM 要件のうち、「RM が同一組織から 2 期 12 年を越えないこと」は削除、また、若手技術者登用に関する記載を「役職にこだわらず若手技術者を含めその分野を主体的にリードできる人材の登用が望ましい」と変更。

- ・「どういう形で次の方をお願いするかが重要」である。後任候補選定の進め方については JNC で論議・決定するという事で待ってればよいのか？
→基本的にそれで良い。今後オールジャパンでの検討を考えると、バランスの取れた配分が重要。学界にもう少し重点をおいても良いと考えている。SC 毎の性格もあろうが、学界／メーカのどちらでも良いのであれば、電力から変更したい。(委員長)
- ・ JNC としては、事前に各 SC 委員長に伺った意見、要望を踏まえつつ、今後、具体的な選考を進めていくこととしたい。

(8) 2008 年パリ大会論文投稿状況 (福井幹事)

資料に基づき、福井幹事より説明。

- ・本部に提出した論文は、NA : 10 件、AA : 26 件、IA : 2 件、合計 38 件で過去最高。
- ・査読はネイティブチェックを含め、各 SC 委員長責任の下に、きちんと行っていただく。
- ・責任著者については、CIGRE 個人会員または会員企業の代表者であることが必要。
- ・NA として提出のものは、採択の可能性が高いことから、本提出の準備を進めて欲しい。AA についても採択の可能性が高いと考えられるものは準備を進めて欲しい。
- ・NA の件数は、2006 年は 7 件だったものが、2008 年には等価会員数を加味して 10 件に増加。この意味からも、会員数の確保は重要である。→(10)と関連

(9) 2009 年 SC 会議日本開催について (福井幹事)

資料に基づき、福井幹事より説明。

- ・2 回/2 年の SC ミーティング日本開催可能とした予算立てをしていることを説明。
- ・2009 年は、C4 (釧路)、D2 (福岡) で開催することが決定している旨を再確認。
- ・なるべく同一テーマ、同一場所での開催を指向するなど極力コストダウンに努めるよう依頼。(2009 年予定の 2SC は共通部分がないため、個々にコストダウンを依頼)
- ・2011 年は A2 の日本開催が決定 (もう一つ開催の場合は関連する SC が望ましい)
- ・2013 年以降も、これまで日本で開催していない SC は積極的に提案して欲しい。

(10) JNC 会員数の増加について (目黒幹事)

資料に基づき、目黒幹事より説明。また、現在の会員数について補足した。

- ・中国、インドの会員数が急増しており、2008 年の本部執行委員会メンバ改選時に、最悪の場合、日本が議席を失う可能性もあるため、9 月までにオーストラリアの等価会員数を上回るべく、JNC から各 SC 委員長に 50 名程度の新規会員獲得を依頼した。
- 活発に活動しておられる方には必ず個人会員になっていただく。
- CIGRE 論文の責任著者は個人会員であることが要件であることを再確認。
- 新規入会者のとりまとめと事務局への連絡を 8/24 まで、会費払込みは 9/21 まで。
林委員長より、以下の補足があった。
- ・本来活動の中で会員数を増やしていくのが筋。しかし中国、インドが脅威であり、本質的な解決策ではなく、性急な話で恐縮だが、よろしくお願ひしたい。

(11) 各 SC からの報告と質疑 (各 SC 国内分科会委員長または代理)

資料に基づき報告があった。主な議事は下記のとおり。

A1：宮池委員長（東芝）

- ・ SC ミーティングの日本開催の予定はない。（2007 年韓国，2009 年は豪，アジアが続くので当分予定なし）
- ・ WG については棚卸しがなされ少なくなった。（現在 7 つ，うち 3 つはほぼ終了）
- ・ アンケートで回答しにくい質問があり，苦慮する場合がある。
 - 回答に苦慮しているのは電力が非協力的で回答できないということか。
 - 電力が回答できないといっても，非協力的だということではない。質問が細か過ぎたりセンシティブな部分があり回答し難いということ。他国も同様の反応で，質問内容を変えて行なわれたケースもある。

A2：白坂委員長（日本 AE パワーシステムズ）

- ・ 新規 3WG へ日本から多くのメンバに参加いただき感謝。
- ・ UHV 関係の Advisory Group を立ち上げ，白坂委員長が convener。WGA3.22 の Liaison member としても指名。
- ・ 2008 年パリ大会論文採択に向け本部内調整中。（25 件以上は採択したい。NA16 件あり AA は最低 9 件。日本は現在 9 位におり採択されるものと思料）
- ・ 2011 年に SC ミーティング（コロキウム）を日本開催予定。

A3：皆川委員長代理（三菱電機）（伊藤委員長欠席のため代理出席）

- ・ 2002 年 SC 再編以降，本部活動は WG 主体。全 WG に日本から正規メンバを輩出。
- ・ UHV 関係 WGA3.22 は伊藤委員長が convener 就任。関連する SC A2/A3/B3/C4 と協調を取り，各国の UHV 技術仕様調査を継続中。
- ・ 新たな WG「真空 CB の高電圧化と技術的課題」の調査を立ち上げた。（ドイツが SF6 の使用禁止対象を拡大したい環境団体を刺激するとの意見を述べ，継続審議となっていたもの。ドイツは遮断器の消弧媒体である SF6 ガスが使用制限を受けることを警戒しており，代替ガス研究を取り上げることに反対してきている）
 - 変圧器の SF6 ガス Tr の規格化にもドイツのみ反対。ドイツは SF6 ガス以外も反対ということか。
- ・ 日本単独論文採択数増大策として国際枠の活用を模索中。

B1：中島委員長代理（ビスキャス）（佐久間委員長欠席のため代理出席）

- ・ 3～4 回／年，国内分科会を開催している。
- ・ 2007 年シンポジウムに 8 件提出，SC ミーティングを予定。
- ・ WG への正規メンバ(2)が少なく，ほとんどが corresponding (5)。
- ・ 欧州勢主導となっており，日本で大きなプロジェクトが少なく立場逆転の状況。
- ・ シンポジウム参加人数への影響懸念に対し何か手を打っているのか。
 - 本部幹事を通じ，SC 参加予定者に対して何度もシンポジウムにも参加するよう呼びかけている。

B2：深海委員長（東北電力）

- ・ 2008 年パリ大会論文は 2 件提出（NA：1，AA：1）。AA について本部宛に推薦文提出。

- ・ 2007 年ヘルシンキ大会で、本部 TC の permanent WG 解消の指導に伴い、来年に全ての WG を終了し、4 つの Technical Advisory Group を設置、その下に短期間の WG を設置の方向。(長期的課題の掘り下げが困難となり、多数メンバから反対意見)
- ・ 2009 年の SC ミーティングは韓国開催のため、2011 年の日本開催はない。
- ・ 急遽、10/15, 16 に日本で、WG (架空送電線のための気象学) を開催の予定。
- ・ 中国 UHV シンポジウムのセッションで発表。ポスターセッションでも発表。

B3 : 小林委員長 (東京電力)

- ・ 5 つの Advisory Area に分かれて活動しており、AA1 はほとんど終了の方向。
- ・ WG B3.22 (800kV 以上の技術要件) の設置が承認され、日本から東芝の横田氏が convener に就任。800kV, UHV に関係する各国からメンバ参加と協力を得るのが課題。
- ・ 日本からメンバを出していない B1/B3 JWG09 をシンポジウムに併せて開催したいとの話が来ており要検討。
 - 窓口、予算をどうするか
 - 部屋は何とかなる。費用面も B1 の SC ミーティング内で調整。

B4 : 高崎委員長 (電力中央研究所)

- ・ 初の convener 輩出を目指す、まずは個々の WG で実質的な貢献をすることが重要と考えている。
- ・ IEEE Power & Energy magazine の 2007 年 3/4 月号に直流送電の特集が掲載。日本が後れを取らないようにしたい。
- ・ 現在は、自励式変換器が重要と認識している。

B5 : 竹内委員長 (中部電力)

- ・ 2008 年パリ大会論文の AA 分はおそらく大丈夫だと思っている。
- ・ B5 としては、1 つの論文を All Japan で作ってきたが、件数ということでは、ある程度分けることも考えるか。
- ・ インターネット (電話) を活用した会議を実施している。
- ・ 2009 年コロキウムを韓国で予定、アジアでは当面 SC ミーティングの予定なし。

C1 : 高野委員長代理 (関西電力) (八木委員長欠席のため代理出席)

- ・ 2004 年までに設立された WG は WG C1.7 を除きほぼその活動を終了している。
- ・ 2006 年のパリ大会では新たに 7 つの WG 設立。2007 年 6 月の AORC 会議で AORC 側から参加依頼のあった WG C1.12 については、AORC からの要望をいただく前に日本から既に、corresponding member を出している。
- ・ 大阪シンポジウムの論文フルペーパーは提出済みか。
 - 確認する。(B1, B4 は送付済み)

C2 : 杉原委員長 (中国電力)

- ・ AORC ミーティングで C2 Technical Session を実施予定。テーマを日本から提案し、採用されている。
- ・ 2011 年の SC ミーティングの日本開催予定はない。

- ・ C2 関係は 20 年くらい SC ミーティングの日本開催がない。是非検討願いたい。(2009 年が中国なら 2011 年は無理か)

C3 : 中神委員長 (関西電力)

- ・ WHO が 6 月に公表した新 EHC (環境保険基準) に対し, CIGRE として意見出しを予定。
- ・ 分散型電源の環境影響について LCA 手法を用いた評価を行っていく予定。
- ・ SC ミーティングの日本開催予定はなし。

C4 : 石井委員長 (東京大学)

- ・ 2009 年の SC ミーティングの日本開催が決定しており, 北海道で開催の予定。
- ・ UHV シンポジウムに 1 件論文を提出。
- ・ TC 委員長が Froelich 氏に交代したことに伴い, C4 の小委員会運営方式は好ましくなく, また CIRED との合同 WG 設立も奨励しないとの方針転換があったが, 後者については従わず, CIRED との協力関係を維持。
- ・ サージの数値電磁界解析, および風力関連の WG を立ち上げ, それぞれ日本から convener を出す方向。

C5 : 内藤委員長 (電力系統利用協議会)

- ・ JNC 論文委員会の指摘を踏まえ, 手法に視点を置いたものに修正し提出。
- ・ CIGRE 活動に regulator をどう入れていくかが検討されている。
- ・ WG C5-3 が再開。個別プロジェクトの資金調達に関するアンケートなど, 答えにくい (各国共通) ため, アンケートの工夫, 修正を要望している。
- ・ 2007 年大阪シンポジウムの論文フルペーパーは今後確認する。
- ・ 2007 年はローマ, 2009 年は中国で C5 シンポジウムに合わせ SC ミーティング開催予定。C5 はシンポジウムとセットのケースが多い。

C6 : 井上委員長代理 (東京電力) (小田切委員長欠席のため代理出席)

- ・ WG C6.03 は必要な検討が終了したため, WG は解散。
- ・ TF C6.04.02, WG C6.05 が若干遅れ気味。
- ・ 2009 年の SC ミーティングはシアトルで開催予定。

D1 : 長尾委員長 (豊橋技術科学大学)

- ・ 今年度は韓国・慶州市にて 10/21-26 に D1 関係の会議を行う。その中で, SC A1 と回転機絶縁に関する Joint コロキウムを 10/24 に開催の予定。
- ・ WG D1.01 (油浸絶縁) についてはベルギー・ブルージュ市にて 10/7-12 に SC A2 と変圧器絶縁に関する Joint コロキウムを開催し, その中で WG 会議を行う予定。
- ・ 2008 年に CMD (International Conference on Condition Monitoring and Diagnosis) を中国で開催予定。2010 年は日本で開催予定であり, 積極的に協力をお願いしたい。

D2 : 山崎委員長 (九州電力)

- ・ パリ大会へは All Japan としての論文を出している。
- ・ 2009 年 SC ミーティングは福岡で開催予定。(2007 年はスイス)

- ・国内分科会の委員は通信分野の専門家ばかりであり、また産学で言うと、学界からの委員は電中研のみ。このため、情報システムの専門家及び学界からも委員になって欲しいと思っている。
- ・いつもこのような人数で海外に行くのか。
→大抵この程度で行っている。

(12) 閉会挨拶

田井副委員長より、以下の通り閉会の挨拶があった。

- ・昨今の報道は、「地球温暖化」「エネルギー問題」を扱ったものが大変多い。技術者として、それらの課題の解消に向けて、参画していくことが求められている時代。
- ・中国、インド両国の経済指標の伸びも大きなものがあるが、CIGRE 会員数についても、急激な伸びが見られる。日本としても、高い水準の技術と豊富な経験を持っており、WGなどにメンバを送り込み、各種の検討に貢献すべき。

懇親会： 17:30～19:00 アルカディア市ヶ谷にて懇親会を実施した。

以 上